

議 事 録

会議等の名称	令和2年度 東御市総合交流促進施設運営委員 会	開催日時	令和2年11月25日（水） 午前10時00分～ 午後12時00分
		場 所	本庁舎第二委員会室
主催者（事務局）	文化・スポーツ振興課	議 長	岡部昌幸 会長
出席者	委員：伊藤羊子委員、梅野亮委員、小笠原正委員、岡部昌幸委員、佐藤聡史委員、 角りわ子委員 保科豊巳委員 前沢朋美委員、御子柴大三委員、三澤一実委員 計10名 事務局：小菅企画振興部長、滝澤文化・スポーツ振興課長、荒井文化係長、大竹館長、 日向主査 計5名		
欠席者	なし		
委嘱書交付	事務局	それでは、開会に先立ちまして委員の委嘱を行います。 大竹永明さん、秋山功さんの委員退任に伴い、伊藤羊子さん、 小笠原正さんの委嘱、また今後の市内美術館連携促進のため丸山 晚霞記念館館長佐藤聡史さんに委員委嘱を行います。花岡市長か ら委嘱書をお渡ししますので、前の方へお願いいたします。 （3名へ委嘱書交付）	
1 開会	事務局	ただいまより令和2年度東御市総合交流促進施設運営委員会を開催 いたします。 本日の司会進行を務めさせていただきます、企画振興部長の小菅 武志と申します。よろしくお願いいたします。 それでは、開会のおことばを角副会長よりお願いいたします。	
	副会長	これから、令2年度東御市総合交流促進施設運営委員会を開会い たします。	
2 会長あいさつ	事務局	それでは岡部昌幸会長よりご挨拶よろしくようお願いいたします。	
	会長	今年度の運営委員会は天候にも恵まれまして、開催できたこと をうれしく思っております。本年度は全国的に大変な事態になっ ているわけですが、国内外の美術館博物館は皆様方ご承 知のとおり6月あたりからいち早く開館して、コロナに対する安 全対策を実施して運営しております。 東御市においても、絵画館が熱心にやっておられました。です が、ますます今後情勢は厳しくなっていくとは思いますが、	

<p>3 市長あいさつ</p>	<p>事務局</p> <p>市長</p>	<p>今新しく委員を3名任命していただきましたので、この委員会はますます充実していくと思います。みなさまどうぞご協力いただきまして、市長をはじめ一丸となって盛り立てていきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ありがとうございます。続きまして、花岡市長からあいさつを申し上げます。</p> <p>おはようございます。お忙しいなかお越しくださいませありがとうございます。また、平素、梅野記念絵画館の運営全般、また市政にご協力いただいておりますことをこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。</p> <p>長野県は、実は昨日の夜7時に新型コロナウイルスの警戒レベルがレベル2からレベル3に引き上げられたところです。ただ東御市はアマビエのおかげではありませんが、陽性者が8月に2名、それも市外で濃厚接触者になられたという形で、まだ市内での感染がないという状態で大変皆様方に気をつけていただいているということを嬉しく思っています。</p> <p>美術館はあまりおしゃべりがされないということで、いい機会ですのでぜひ足を運んでいただくということになるとありがたいと思っております。よく言うのですが、大原美術館に人生に一度しか行ったことがないのですが、行ったことがある美術館という言い方をしてしまいます。</p> <p>ただ何度も足を運んでいただくためにやるべきことがあるのかという気もしております。特に地元の人たちが足繁く通っていただける場になるといいなと思っております。ぜひ皆様のお力をお借りする中で、いい展示会や交流の場所ができますようお願いしましてごあいさつに代えさせていただきたいと思っております。</p>
<p>4 運営委員会の役割について</p>	<p>事務局</p> <p>事務局</p>	<p>それでは、次第の4「運営委員会の役割」について、事務局から説明を致します。</p> <p>それでは事務局より運営委員会の役割についてご説明させていただきます。東御市総合交流促進施設は条例第15条より「交流施設の適正かつ円滑な運営を審議するため、東御市総合交流促進施設委員会を設置する」としております。また、施行規則第5条より、美術館の運営に関する諮問があったときに開催するとあり、諮問について調査・審議し、その結果を答申し、また意見を建議することを委員会の役割としております。任期は平成31年4月1日より2年間となっております。以上です。</p>
<p>5 役員の選任</p>	<p>事務局</p>	<p>続きまして、次第の5「役員の選任」に移ります。</p>

	<p>ます。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは、報告事項に入ります。(1)(2)は関連がありますので、「(1) 令和元年度事業実績について」続けて「(2) 令和2年度事業取組状況について」事務局より説明をお願いします。</p>
事務局	<p>(1) 令和元年度事業実績について</p> <p>(2) 令和2年度事業取組状況について 説明</p>
会長	<p>ただいまの件について、意見等がありましたら、挙手のうえ、お名前を述べてからお願いします。</p>
委員	<p>貸出の件ですが、貸出にあたって費用はとっていますか。</p>
事務局	<p>貸出についてはとっておりません。</p> <p>原則、公立美術館同士の貸し出しは無料です。</p>
委員	<p>入館者と入館料の実績のところで入館者が減った割に入館料が増えた点について理由はどこにあるのでしょうか。</p>
事務局	<p>表内の招待・減免のところをご覧いただきたいのですが、昨年度に比べて招待・減免が大きく減り、有料での入館者数が増えたことが要因として考えられます。</p>
委員	<p>展示会において、一般の有料の方が多く来られたというところはどこでわかりますか。</p>
事務局	<p>この資料では展覧会ごとに一般・招待の内訳がわかる内容となっていないため、後日お示ししたいと思います。</p>
委員	<p>展覧会が入ったということですか。</p> <p>一般の方が多く来られた展覧会が行われたということですか。</p>
事務局	<p>やはり小倉尚人展でその成果が表れたと思います。小倉展では今まで美術館に来られたことのないお客さまが来たということが考えられます。</p>
委員	<p>貸し出しはしているとありますが、逆に借り受けて展示しているということはありませんか。</p>
事務局	<p>特別展においては、基本外部から作品を借りての展示となります。</p>

<p>(3) 梅野記念絵画館 運営課題及び取組状 況について</p>	<p>委員</p>	<p>絵画館からの出展点数と借り受けた点数の集計はできていますか。</p>
	<p>事務局</p>	<p>図録掲載のリスト、館で配布しているリストには館蔵、あるいは個人蔵、所蔵元（美術館・ギャラリー等）を記載しております。データとして集計はしていませんが、必要あれば集計できるようにはなっております。</p>
	<p>委員</p>	<p>やはり美術館同士では貸し借りにお金のやりとりは発生しませんか。</p>
	<p>事務局</p>	<p>昔は一点 20,000 円でという時代もありましたが、今では公立美術館同士ではお互い無料で貸し借りというのが慣例になってきております。</p>
	<p>委員</p>	<p>小倉尚人展が一般の人を呼べた理由はどんなところにありますか。</p>
	<p>事務局</p>	<p>まず、小倉尚人展実行委員会が外部にできていたことが大きな要因と考えます。普段、美術館に関わることのない方々が中心となって組織された委員会ですので、そういった方々による入館券の購入が多数を占めているということが一つの要因として考えられます。</p> <p>また、広報については、丸山晚霞記念館ではよく行われている信濃毎日新聞での共催広告や日曜美術館アートシーンでの紹介もありましたのでそういうことも大きな要因の一つと考えられます。</p>
	<p>会長</p>	<p>続きまして、審議事項に入ります。</p> <p>(3) 梅野記念絵画館運営課題及び取組状況について</p>
	<p>事務局</p>	<p>(3) 梅野記念絵画館運営課題及び取組状況について 説明</p>
	<p>会長</p>	<p>ただいまの件について、意見等がありましたら、挙手のうえ、お名前を述べてからお願いします。</p>
	<p>委員</p>	<p>5 番の収集保存事業についてですが、青木繁、伊藤久三郎、菅野圭介、荘司貴和子、今西中通等の作品のデジタルアーカイブ化を実施するとありますが、ここにぜひ板祐生、中村忠二、横井弘三を入れてもらいたいと思います。なぜなら、中村忠二や横井弘三など、当館で開催したあと、練馬の区立美術館での展覧会開催に繋がっております。中村忠二に関しては、兵庫県の人ですから、</p>

関西の方面にもっと知ってもらいたいと思います。板祐生に関して言えば、令和6年か令和7年に鳥取県立美術館ができます。(板祐生が鳥取県出身ということもあり)当館所蔵の板祐生はとても良質なものですのでこれをぜひアーカイブに入れてほしいと思います。また、収蔵庫の空きがないという課題については、市内に空き家等が多くあると思いますのでそういったところを有効活用するようなことができないか提案いたします。

友の会の協力体制についてですが、友の会も非常に高齢化しておりまして、展覧会の中に若い作家等、そういう人も入れないと友の会の会員数は増えません。やはり中堅若手作家にも注目しなければ、あと10年先にもなると友の会の会員の大半がいなくなるということも考えていただきたいと思います。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。いただいたご意見を検討させていただきたいと思います。

事務局

御子柴委員の現存若手作家というお話ですが、おっしゃることもよくわかりますが、なかなか難しいところがあると思います。この梅野記念絵画館は初代梅野隆館長の収集方針である埋没した作家の再評価というのが一番の中心で、それが外せない方針であります。現存作家をどのようにして入れていくのかというのは私どもとしてももう少し考えなければならぬと思います。

委員

館長がおっしゃることはもっともなんですが、僕らはやはり梅野さんのものの見方の中で育ってきています。私は梅野さんの見方で現代の作家を探していくことだと思います。そうしないと繋がっていかないのです。美術というのは時代が生んでいくものなのです。その人の個性とその時代。それは梅野さんのものの見方の中から…梅野さんがいたらどのような評価を実際されるかはわかりませんが、この視点がやはりほしいと思います。

事務局

まず、もし現存の作家を取り上げるとすれば、梅野隆の考えのとおり、他のどこもやらない作家、初めて取り上げる作家というものをやりたいと考えております。そのためには、このへんであれば東信美術展を3年から5年ほど見ていけば、いい作家というのはだいたいわかります。このような作家を他の美術館よりも先に取り上げたいと思っております。そういう意味では東京の画商さんで取り上げる作家ではなく、郷土にちなんだ作家、郷土で頑張っているいい作家さんを他の美術館よりも早く取り上げるということをやっていきたいと思っております。

委員

それもよく理解できますが、やはり作家というのは打って出る

というときに銀座というのがあるのです。世界でいえばアメリカ。アメリカでいえばニューヨークで打って出ていくということです。長野県で優秀な作家を現地で探すというのはできないことはないと思いますが、銀座に出てきた長野の作家の方が見つけやすいと思います。このようなことがありましたらまたご紹介させていただきたいと思います。

事務局

色々な情報を得ながら、適切な人選をして現存作家についてはやらせていただきたいと思います。

委員

今後の普及活動の観点から何点か意見させていただきます。まず、最初に地域との連携のところで「子供たちにも活用してもらえる運用」とありますが、いま日本全体で学校のほうで giga スクール構想というのがあります。コロナの関係で急遽前倒しになって今年の臨時的予算も 2,300 億円入り、Wi-Fi の充実を図る事業を実施しております。ここ数年でかなり社会が劇的に変わっていきます。そのようなときに例えば館に行かなくても利用できるような、先ほどのアーカイブもそうですが、インフラ整備がとても重要になってくると思います。そういう点で Wi-Fi の充実、これは早急に進める必要があります。これは昨年度からユニークな企画として、ナイトミュージアムとか最近では facebook や instagram で情報も発信されています。そういう点では、地域にとどまらずに全国に発信するようなそういう情報発信ができつつあります。それを鑑みてその Wi-Fi の充実というのは、これは美術館だけではなく、市の観光化を考えれば早急に進めていくべきと考えます。その中でも美術館にいち早くやっていただきたいと思います。

それが一点と、最後に 9 番のところに博物館登録というところですが、かなり以前からこのことについては議論されていたところですが、かつて国立近代美術館の作品を借用するという話もあり、できるというところまでいったのですが、結局博物館の登録がされていないということで却下されてしまいました。梅野記念絵画館から青木繁の「眼」を貸し出した関係で、国立近代美術館の作品を貸し出すところまでいったのですが、進めていくうえでとん挫した経緯があります。それはやはり博物館の施設として登録されていなかったからです。これはかなり温湿度の管理等難しいところはあるのですが、これはまず進めていただきたいと思います。

それとボランティアについてですが、美術館と一般の市民をつなぐのはボランティアだと思います。その点ボランティアは非常に重要になってくるのではないかと思います。これは東京芸術大学で行われているとびら（とびらプロジェクト）、保科先生も関わっているかとは思いますが、しかし規模は違いますが、こうやって地域の人と美術館をつなぐような活動がなかったら、いくら入館

者を増やしても若い人を増やそうとしても無理があります。その点で美術館が単なる作品を展示している空間なのか、そうではなくて東御市に住んでいる人にとって異なる世界の入口にしていかなないと美術館の価値がないと思います。それが今までの絵画の展示であっただけですが、もうそういう時代ではないのでやはりボランティア中心に美術館の活動を広げていく必要があるのではないかと思います。

事務局

Wi-Fi の充実という点につきましては、東御市内主要公庫教施設においては整備が完了していますが、性能的な点を含め、所管課に確認のうえ検討したいと思います。

博物館登録につきましては、引き続き県の生涯学習課、地方事務所と協議を重ねていきたいと思っています。

ボランティアについても引き続き検討していきたいと思っています。

委員

Wi-Fi の件につきましては、積極的に言っていただきたいと思っています。今後3年間で相当変わると思います。今までのスピードで10年で起きていたことが3年で変わっています。それくらいのスピードで動いていますのでとにかくWi-Fiは進めていただきたいと思っています。といいますのは、先日Wi-Fi使った鑑賞というのをやないづ町立斎藤清美術館で実施しました。非常に効果的でした。そのあと八戸の新美術館運営会議のワーキンググループもzoomを使って今進めておりました。そのあとは坂戸の中学校でも対話型鑑賞をzoomで行ったその5分後に小笠原の母島小学校とzoomを使って鑑賞を行っていました。つまりWi-Fiはこのように世界に開けていくツールなのです。それが長野に梅野があるということを知らしめていくことにもなるし、先ほどの友の会の問題も今後の市民にとっての美術館という問題もクリアになっていくと思いますので早めに取り組んでいただきたいと思っています。

それとボランティアに関してはターゲットを絞らないとボランティアは機能していかないと思います。例えば普及的なことを言えば小学校、幼稚園に向けた作品鑑賞のボランティアをその母親に依頼するとかステークホルダーの方々に対してどのような人たちがいいのか、どのようなボランティアを集めるのか、ボランティアの種類を何種類か作っていく必要があるのではないかと思います。

ボランティアの方も活動の意味が分かれば主体的に動きますのでそこらへんは市民が美術館を介して活躍できる場、市民が活躍する場としての美術館、そのような視点も捉えていくとより活性化していくのではないかと考えます。その辺の構築もぜひ取り組んでいただきたいと思っています。

委員

美術館や美術大学も含め、文化の在り方が大分変わりました。僕らが大学に入ったころの感じとは全く違います。そして文化芸術が一体何ができるのかが問われている時代だと思います。このこともあり、三澤委員も大学の方でやってらっしゃると思います。芸術大学もかなりいろんなことをやり始めました。そのネットワークというのが非常に大事です。先ほども Wi-Fi のネットワークのこともありました。長野県でもネットワークを全体で進めていくようなやり方をしております。伊藤さんはもうご存知かとは思いますが、このようなことを強化して行っていくということになると思います。近隣でいうと、東信地区の美術だけではない役割の芸術文化にかかわっていくものを所管する機関と一緒に連携して何ができるのか問いかけていくことが市民や広域に広がっていくきっかけになっていくと思います。そういうことも含めて梅野記念絵画館が先ほどもおっしゃられた埋もれた作家を掘り起こすということもいいのですが、一本だけにしないでももう少し違った文化の役割としての地域の中で何ができるのかということについても一つワーキングを作るなり、テーマを作るなりして、三澤委員の意見も非常に活用できますし、ネットワークも含めて検討していくということが必要かと思えます。

あと実際に関わっていくためには、体を運んでそこに参加しないとなかなか皆わかってくれません。それはすごく実感しております。参加させていくということが、参加してもらうきっかけを作っていく、そういうことを仕掛けていくということがとても大事なことだと思います。東京では何もしなくてもいいのですが、こういうところになると努力していかなきゃならないと思いますので、そんなことも考えていただけたらと思います。

事務局

梅野記念絵画館は今までは来ていただいた方に対して鑑賞系のWSを中心にやってきました。我々も保科先生や三澤先生の助言をいただきながら実施していきたいと思えます。また、丸山晚霞記念館はそれこそ参加型のWSをかなりの数やってこられているのを見ておりますので、佐藤館長にもアドバイスをいただきながら実施に向けて検討していきたいと思えます。

委員

やはり市民が動かなければ動いていきません。なので市民が主体的に関わるようなシステム作りが重要だと思います。あと保科委員が言われた多様なものと関わる、これはとても重要です。例えば、東御市はかなり食で進めているのでワイン等と絡めていくことや、文化というものを美術だけで捉えずに、演劇や音楽等食も文化なのでその多様な文化をつなぎ合わせた中で梅野の作品がある構造を作っていく必要があると思えます。

委員

大竹館長が入り、体制が一新されたことで大きく変わったなというイメージがあります。そしてこの資料を見せていただいたらやはり一番は私が以前びっくりした博物館の登録がされていないということが今回改善されるよう動いていらっしゃることは一つの運営の進歩だったなのと思います。

そして今先生方のお話を伺うと、やはり美術館だけでは、文化とかそういうものは語れず、もっと総合的なものが必要になってくる時代の変化というのがあります。そうなったときに、長野市もそうですが、美術館だけではどうにもならないことがたくさんでできます。やはり横のつながりで観光課と繋がったりだとか、台風被害の復興事業について、ハードの復興ももちろんですが、心の復興を文化事業でつなげていく発想をもっていかなくてはいけないと思います。一つの組織の中ですけれども、縦割りではなく横の連携を持って、物事が大きく動いていくと思います。今度学芸員として新しい日向氏と館長として大竹氏が今までの埋もれた作家の発掘、研究調査について、時間はかかると思いますが、きちんとされていくと思います。そういった普及活動もいろんなものを巻き込んでやっていただけるのではないかと思います。そういう大きな期待があります。ぜひ、美術館だけにとどまらないで、企画・振興の関係から組織的な動きで人も含めてマンパワーも含めてそういう形で動いていただければ、資料に掲載されている課題が一つ一つ解決に向けて動いていくのではないかと思います。

事務局

今回いただいた三澤先生、保科先生、前澤学芸員からいただいた意見というのは改めてこの資料3の絵画館の運営課題に追記させていただき、取組状況を毎回ご報告させていただきたいと思います。

委員

先ほど保科先生にも言っていたのですが、県の文化財団の取り組みとして今年まで5年間の取り組みとして元文化庁長官の私共の近藤誠一という理事長のもとで県の芸術監督団事業を実施してまいりました。この資料の10ページにあるウの1)のところで学芸員の育成について学芸員をシンビズムに派遣しとありますが、このシンビズムというのが「信州の美術の主義」という本日もいらっしゃっている前澤学芸員が発案したものでして、5年前から長野県の学芸員さんたちに当初20人、今は30人ですけれども集まっていたいで実施しております。信州の美術ってなんだということを皆で考え、連携して事業を行い、切磋琢磨しようということで、昨年亡くなられました本江邦夫さん（多摩美術大学の先生でいらっしゃいましたけれども）を監督に迎えて、今年

で4回目となる展覧会を上田市立美術館でこれからさせていただきます。そういう活動をしていく中で、ワーキンググループの議長は元松本市教育委員会にいらっしやいました大竹館長ですし、その中で全体の盛り上げ役、対話型鑑賞を県内で広めてくださっているのは丸山晚霞記念館の館長でおられる佐藤館長でございます。もちろん今日は梅野記念絵画館の運営委員会ではございますけれども、まさに東御市のマンパワーと言いますか、施設も含めて全県の中心となる人材がリーダーとしてこの市にいらっしやるということを釈迦に説法になりますが、市の方々にも活動の中の求心力となっている方々がいらっしやることを改めて申し上げたいと思います。

それからこのシンビズムの取り組みには三澤先生のお話にもあったような市民を巻き込んだ活動というのをご指導いただいたり、評価委員にいただいております。現在長野県で大きな美術館を建てておりますけど、そこでは保科先生にも委員に入ってください大きな動きを見せているところです。そうした意味でも長野県の中の東御市の文化行政、美術館行政はこういう中で動いているということも市の皆様にも改めて認識していただいて、県の中でリードしていただいているということを広く皆様にお伝えいただければと思います。

委員

上田市立美術館の小笠原です。今日の資料を拝見させていただいて、また今まで東御市の梅野記念絵画館、丸山晚霞記念館は上田の美術館にとっては東御市の二つの美術館は両方とも先輩であります。特に普及事業に関しては、学ぶところが非常に多いです。ちょうどこの秋から冬にかけて、上田市立美術館、サントミュージウムも含めまして、美術館の運営委員会というのを今まで開いてなくて、開館5年で初めて開催いたしました。実は去年交流文化芸術センターで検証委員会というのがありました。要は無駄遣いをしていないか、効率よく使っているか、当初の計画よりもお金がかかっているということを言われて美術館の方も今開いているわけです。その一方で私思うことがありまして、特に梅野記念絵画館さんはNHKでもよく取り上げられています。どうしても大都市部と違って、同じ展覧会と違って動員力というのはなかなか難しいというのはあると思うのです。その一方でお金では回収できない価値を発信できるという、東御市というところに梅野という館がある、晚霞記念館というものがある、これがあるのとないのとでは、町のブランドというのは全く異なってきます。例えば、私安曇野市の出身ですけれども、北アルプスがない、大王わさび園がない、安曇野市にどれだけ魅力があるか、あるいは松本市の天守閣がなかったら松本市があれだけの文化都市になったのか。あるいは草間彌生がなかったら、今の松本市にあれだけの文化性

が生まれてくるのかなと私は思います。なので私は梅野記念絵画館がたとえ予算的に、当然かけたお金に対してどれだけ支払うのかという点では難しいところはあるのですが、そもそも文化というのはそういうところが前提としてありますので、魅力を発信して梅野記念絵画館に足を運んでいただく以外の人にとっても、この街にとってかけがえのない財産になっているのだなと私はつくづく後輩の館として思うところでございます。

もう一点感想ですが、運営課題がたくさんありました。この中身を見ていくと私も学ぶことは非常に多いです。これはどういう形になるかわかりませんが、例えば育成や地域のコーディネート、色んな鑑賞授業、使用料の改定、それからボランティアや見直し等色んなことがあると思います。特に地域への普及事業ということになりますと、私は今の梅野記念絵画館のスタッフの体制で、この企画展の企画・運営、常設展の企画・運営、ふれあい館の企画・運営というところを果たして館長・学芸員、もうお二人の受付事務の方々でやるというのが、かなり大変なのではないかなと私の今までの5, 6年美術館に勤めていて思うところでございます。そのあたり実際去年までは、佐藤ご夫妻でやられていて比較的ライフワークのようにやられていたからこそできたのではないかと思います。今後は市の美術館として行政ルールに則り、勤務の条件を守ったうえで運営していくということは無視できないところであります。それはなぜかと言いますと京都京セラ美術館で時間外勤務で課長補佐が過度の時間外勤務が引き金で、無免許運転で逮捕されたというのがあります。が、(長時間労働が続き、やむなく車を利用したということとそれに伴い、労働時間を適正に把握していないとして上司が処分を受けた事例)美術館の業務には外から見えない業務が多々ありますので、そういうところもよくよく配慮しながら無理のない範囲で進めていくことが大事なのではないのかと私は思います。

事務局

貴重なご意見ありがとうございます。今後の館運営をしていくうえでよいアドバイスをいただけたかと思います。

副会長

私は地元の工芸作家の橋渡しということで東信濃工芸作家展をやらせていただいております。本年度の2月の展示はコロナの関係で見送らせていただきたい旨を絵画館にお伝えしたところ、次回から火のアートフェスティバルに合わせた9月から10月での開催の提案をいただいて、現在動いているところです。梅野のメインの動きとは異なり、地元の工芸の作家を紹介するというところでふれあい館を活用していい時期にやらせていただけるというのは地元の作家の育成にとっても、発表の場をつくるにしてもいいことだと思っています。私は作家なので美術館での発表、展示に関

する知識がないものですから、ぜひ皆様のご指導ご鞭撻を、そしていい作家さんがいらっしゃったらぜひご紹介していただきたいことをお願いしたいと思います。

副会長

地元の作家でやるというのは非常にいいことだとは思いますが、そこに角さんが尊敬しているような作家が他の地域にいて、その人を一人入れてやるというようなことはどうですか。例えば濱田陽子さん等そういう人を入れると、レベルもアップすると思います。

副会長

今後の課題としても私は考えておりますので、今のところは地元の東信地区ということで行っているのですが、今後は長野県全体を考えていきたいと思っております。また、県内の優秀な作家さんと地元の作家さんとコラボすることでレベルアップと県下の方々に見に来ていただくチャンスにもなると思います。また、いろんな方々とお話しする中で地元の作家のことを地元の方が知らないということもあります。これは工芸に限らずということもあるのですが、丸山晚霞がこの東御市出身であるということや梅野にあれだけの作品があるということを本当に知らない方が多いです。ですからまずは周知のため地元の工芸作家関連の方が梅野に来ていただいて、梅野にこれだけの作品があるということを知っていただく。そして次回の企画展にも来ていただく流れをつくることにも地元作家を紹介することが寄与すると考えます。

委員

課題に追加していただきたいのがあるのですが、入館料の検討をやっていただきたいと思います。今までは入館料を安くすればいいという話があったのですが、私は入館料を高くしてほしいと思います。入館料が高くても安くても来る人は来ます。安くても来ない人は来ません。では何をするかといいますと、入館料を高くした関係で入館料に見合ったサービスを提供していくことです。そのような考え方もあるのかなと思います。サービスが充実してくればもう一度行きたくなる、お金払って一回で終わりではなくてちょっと高かったけどもう一回行こうかと思えるようになります。その一つの考え方は1年間活用できるパスポートという考え方があります。金額は少し高くなるのですが、1,500円でそのパスポートを購入すれば、1年間に限り何回でも来れるという内容です。そうすれば来館者数も増えると思います。そしてサービスとしてそのパスポートの中に色々な館の持っている今年の1点についてその作品の解説を入れる等、そのようなサービスをしていくことによって、作品の解釈または作品への親近感も湧いてくるのです。このような取り組みをしていないまま、来る人たちからお金を取るという考え方ではなくて、来る人を育てていくとい

		<p>う考え方もできますので、そういう点でも検討いただきたいと思います。</p>
<p>8 審議事項 (1)「令和2年度取得作品(案)について」</p>	事務局	<p>昨年、三澤委員がパスポートの話を出してくれたかとは思いますが、使用料については3)において、使用料については柔軟性を持たせるということで、中で検討させていただきたいと思います。</p>
	会長	<p>続きまして、審議事項に入ります。 (1)「令和2年度取得作品(案)について」について事務局から説明をお願いします。</p>
	事務局	<p>(1) 令和2年度取得作品(案)について 説明</p>
	会長	<p>ただいまの件について、質問・意見等ありましたら、挙手のうえ、お名前を述べてからお願いします。</p>
	会長	<p>私の方から①②③については作家が長野に関連する作家ということでしょうか。また、①②③④⑤については当館で展覧会が開かれたということですね。 ⑥はどのような経緯で取得にいたったのか説明をお願いいたします。</p>
	事務局	<p>当初梅野隆がこの館に寄贈した430点なのですが、その430点の中に本荘赴は入らなかったのですが、本荘赴も梅野隆が扱った作家の一人ということもありますし、ぜひともというお話をさせていただいたというのがあります。</p>
	会長	<p>今年はコロナ渦ということですが、そのような状況下においても良い作品を集められたのではないかと思います。</p>
<p>(2)「令和3年度事業計画(案)」</p>	会長	<p>続きまして(2)「令和3年度事業計画(案)」について事務局から説明をお願いします。</p>
	事務局	<p>(2)「令和3年度事業計画(案)」について 説明</p>
	会長	<p>ただいまの件について、質問・意見等ありましたら、挙手のうえ、お名前を述べてからお願いします。</p>
	委員	<p>ふれあい館の活用が非常に豊かになり、期待しております。面白そうなので、見に来なきゃなと思っております。</p>
		<p>また美術館の方で保科先生の作品の展示が入ってきて、物故作家の展示の中に現存作家の展示が入ってくると他の物故作家の展</p>

		<p>示が際立ってくると思います。また、美術館がすべての人の新しい世界への入り口となるためにはやはり現代の作家というのどこか1か所入った方がすごく良くなるのではないかなと思います。その点非常に期待しております。</p> <p>一年間の中でどこか一回は現存作家の展示ができる企画を今後も続けていただけたらと思います。</p>
9 答申	<p>会長</p> <p>会長</p> <p>事務局</p> <p>会長</p> <p>事務局</p> <p>委員</p> <p>会長</p>	<p>皆様どうでしょうか。このたびの案について異議がなければ拍手をいただきたいと思いますがいかがでしょうか。</p> <p>(拍手)</p> <p>それでは「令和2年度取得作品(案)」及び「令和3年度事業計画(案)」について拍手をいただきましたので、それを踏まえて答申したいと思いますが、事務局の方で答申書(案)を作成するまでしばらく休憩といたします。</p> <p>(答申(案)を配布)</p> <p>それでは事務局から答申(案)について朗読をお願いいたします。</p> <p>(答申(案)を朗読)</p> <p>(異議なし)</p> <p>以上で、本日の審議事項は終了です。小菅企画振興部長、お願いします。</p> <p>事務局</p> <p>岡部会長、ありがとうございました。</p> <p>それでは、次第10その他について何かございますでしょうか。</p> <p>(特になければ)</p> <p>事務局</p> <p>以上で本日のすべての議事が終了いたしました。</p> <p>御子柴副会長に閉会のおことばをお願いします。</p> <p>副会長</p> <p>「これにて、令和2年度東御市総合交流促進施設・梅野記念絵画館運営委員会を閉会いたします。」</p> <p>(閉会)</p>
10 その他		